

平成23年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業区分	番号	事業名	市町名	再評価の理由	全体事業概要と目的	採択年	事業進捗状況			事業を巡る社会経済状況等の動向	費用対便益分析結果 コスト削減の可能性 代替案の検討等	今後の事業の見通し		
							総事業費	進捗率	事業進捗内容					
													うち工事費	進捗率
													うち用地費	進捗率
海岸事業	3	長島港海岸(海岸高潮対策事業)	紀北町	③	<p>【全体事業概要】</p> <p>[中ノ島地区] 護岸補強:1,180m</p> <p>[呼崎名倉地区] 堤防補強・改良:1180m 離岸堤:300m (100m×3基)</p> <p>[西長島地区] 堤防補強:743m 陸閘改良:2基</p> <p>【目的】</p> <p>当海岸の護岸・堤防は、昭和28年の13号台風や昭和34年の伊勢湾台風による災害後築造されたものであり、老朽化が著しく、台風時などには、堤防を越流した海水が背後地の道路や家屋に降り注ぐといった被害が生じています。</p> <p>当該事業は、護岸、堤防の補強改良を行うことにより、波浪や高潮等による災害を防除し、堤防背後の生命と財産を守ことを目的としている。</p>	H2	3,998	74.3%	<p>【整備済み内容】</p> <p>[中ノ島地区] 護岸補強:564m</p> <p>[呼崎名倉地区] 堤防補強:550m 離岸堤:300m (100m×3基)</p> <p>[西長島地区] 堤防補強:743m 防潮扉動力化:2基</p> <p>【次年度以降の内容】</p> <p>[中ノ島地区] 護岸補強:616m</p> <p>[呼崎名倉地区] 堤防改良:480m</p>	<p>【社会的状況の変化】</p> <p>各地区とも防護区域は、依然として人家が密集しており、防護の必要性に変化はありません。</p> <p>今年の7月に発生した台風6号によっても、堤防を越流した海水が背後の道路に降り注ぐといった被害が報告されています。また、今年3月に発生しました東日本大震災により、多くの住民が津波防災に対して関心を持つ中、本地区においても東海、東南海、南海地震発生が危惧され、津波による甚大な被害が想定されるため、護岸、堤防の補強改良の必要性及びその機運は一層高まっています。</p>	<p>【費用対効果分析】</p> <p>[中ノ島地区]B/C=23.2 [呼崎名倉地区]B/C=19.5 [西長島地区]B/C=26.6 [全体]B/C=21.5</p> <p>【コスト削減】</p> <p>呼崎名倉地区のうち名倉地区において、高潮や高波に対する防護方式を再検討し、より安価な方式に変更が可能となったため、大幅な事業費の削減が図られました。</p> <p>また、中ノ島地区においても、計画時において出来るだけ既存施設を有効に活用することや、各施設を細分化し、より経済的な断面を採用するなど、設計時において可能な限りコストの削減に取り組んでいます。</p> <p>【代替案】</p> <p>呼崎名倉地区のうち名倉地区において、当初の計画通りに離岸堤を整備することにより浸水被害を防ぐ面的防護の案が挙げられますが、本地区では地形条件等から、より経済的な堤防の嵩上げによる線の防護が可能であるため、今回見直した線の防護を進めることが妥当であると判断しています。</p>	<p>【今後の見通し】</p> <p>厳しい財政状況の中、2地区への同時投資は事業の停滞を招くことから、現在では1地区に集中投資することにより効率化を図っています。先ず熊野灘に直接面し海気象条件的に最も厳しい呼崎名倉地区について、最優先地区として位置付け、平成25年の完成を目指します。中ノ島地区については、現在残っている湾奥部の整備を平成25年度より再開し、平成36年度の完成を目指します。</p>		
						H36	-	-						

平成23年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業区分	番号	事業名	市町名	再評価の理由	全体事業概要と目的	採択年 S 目標年	事業進捗状況			事業を巡る社会経済状況等の動向	費用対便益分析結果 コスト削減の可能性 代替案の検討等	今後の事業の見通し
							総事業費	進捗率	事業進捗内容			
							うち工事費	進捗率				
							うち用地費	進捗率				
海岸事業	4	千代崎港海岸(海岸浸食対策事業)	鈴鹿市	③	【全体事業概要】 離岸堤:1150m (120m×7基, 170m×1基 70m×2基)	H4	2,765	81.0%	【整備済み内容】 離岸堤:890m 【次年度以降の内容】 離岸堤:260m	【社会的状況の変化】 当該地域は、伊勢湾に面し、工業、漁業等が盛んなだけでなく、国道23号、近鉄等で名古屋方面と直結しており交通至便で、人口が集中しています。防護区域についても、依然として人家が密集しており防護の必要性に変化はありません。また、住民の防災意識の高まりから、安心して生活の出来る環境の実現のために以前と変わらず事業の必要性は高いものがあります。	【費用対効果分析】 B/C=3.1 【コスト削減】 背面の沖防波堤の延伸や南側に港湾施設が造成されたことなどから、当海岸南端部分において堆砂が見られました。この堆砂により、越波の軽減や護岸基礎の安定が見込まれることから、離岸堤の整備範囲を再検討し、その結果、約230百万円のコスト削減が可能となりました。 【代替案】 侵食により越波が生じる海岸の場合、近年の海岸整備においては、高波浪を強制的に砕波させる工法を組み合わせる面的防護が最適とされている。離岸堤は堆砂効果についても期待できることから、当海岸においては代替案は考えられず、現在の進捗状況及びその効果からみても現計画を進めることが妥当であると判断しています。	【今後の見通し】 今後も厳しい財政状況になると予想されますが、引き続き事業の進捗を図り平成28年度の完成を目指します。
					【目的】 土砂供給の減少により、海浜は年々侵食され、台風や低気圧の通過時には背後地への飛沫が生じています。 このため、離岸堤の整備により波浪や高潮等による災害を防除し、堤防背後の生命と財産を守ると共に、海岸侵食の進行を防止することを目的としている。				H28			